



神戸有馬電鉄沿線名所図

神戸有馬電鉄沿線名所交通図

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

神戸電鉄の前身、神戸有馬電気鉄道はその名の通り、神戸と六甲山の北側に湧出する有馬温泉を直結する目的で設立され、昭和三年十一月二十八日に有馬線の湊川―有馬温泉駅間が、同年十二月十八日に国鉄福知山線三田駅に接続する三田線、唐櫃（現・有馬口）―三田駅間が開業した。

本図は昭和初期の画風であり、有馬線開通を記念して直前に刊行しているが、あと一カ月を残して未開通の三田線の様子も力を込めて太い赤線で描出している。作品委嘱のスポンサー、神戸有馬電気鉄道社長・山脇延吉氏は沿線の道場出身の農政家である。取材協力の賜物であろう。

初三郎自身は鉄路の延びる喜びを「北攝と山陰が、こゝに目出度く華燭の典を挙げたるの感がある」（絵に添へて一筆）と吐露したほどだ。

また、郊外型登山電車としての特徴を持ち、源平一ノ谷の合戦で有名

藤本一美

首都大学東京非常勤講師。日本国際地図学会会員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に『旅と風景と地図の科学Ⅱ』（私家版2006年）、最新刊に『展望の山50選 関東編』（東京新聞出版局）がある。



『神戸有馬電鉄沿線名所図』
 [神戸有馬電鉄沿線名所交通図]
 (昭和3 (1928) 年11月1日)
 神戸有馬電気鉄道株式会社 発行
 犬山町日本ライン蘇江の観光社 印刷



神戸電鉄株式会社

Kobe Electric Railway Co., LTD

設立：大正15年3月27日

営業開始：昭和3年11月28日

本社：神戸市兵庫区新開地1丁目3番24号



神戸市北部の通勤・通学路線として

湊川駅を起点に、六甲山地を越えて有馬温泉、三田、粟生に至る有馬線、三田線、粟生線と、平成3年に新設開業した公園都市線の4路線を有している。有馬温泉への「遊覧鉄道」として出発したが、沿線の住宅開発の進展とともに通勤・通学路線としての役割が増大。輸送力の増強に努め、高度経済成長期の昭和43年には、神戸高速鉄道への乗り入れにより、神戸都心部との直結を果たした。古くは創業時の社名の略称から神有、現在は神鉄の呼称で利用者に親しまれている。



最後に、大きな後背地としての有馬温泉に注目すると、ラジウム新温泉や旧温泉街、栄鉱泉そばの虫地獄・鳥地獄、薬師堂上の温泉神社、瑞宝寺、さらに夫婦ヶ滝などの名瀑を立体細密絵図として描画、筆力のこもった代表作の一品だ。

大胆な図柄の構図は、北の山側上空からの視点で、中央に六甲山系を配置。左には有馬温泉を大きく描き、背後の大江山、天ノ橋立まで雲居の空でカムフラージュする巧みさ。右には大都市神戸を、その奥には大阪湾から太平洋、富士山へと続く。水平線はるか遠くには、朝鮮、中国、台湾、ハワイ、桑港まで描画して「遊び心」が如実に滲む。春の桜の花と秋の紅葉が混在しているのも楽しい。

「鴨越」駅も急勾配ながら難なく通過し、溪谷のトンネルや妙号岩を過ぎると小部駅（現・鈴蘭台、粟生線分岐）に達する。そこは電鉄自ら「関西の軽井沢」として宣伝したりゾート住宅地だけに、高原開発中の状況がつぶさに認められる。

六甲北口駅（現・神鉄六甲）からは、六甲ドライブウエーで六甲山上の行楽地へ行くことも可能だし、平清盛遺跡のある多聞寺へも誘われる筆致である。